

歴史に幕、吾妻中学校の卒業式・閉校式

3月10日、今年度末をもって閉校となる吾妻中学校で、最後の卒業式と閉校式が行われました。

昭和22年に吾妻村立中学校として開校し、以来69年にわたり、多くの卒業生を送り出してきた同校の最後の卒業生は18人。

卒業式では、18人の卒業生が一人ひとり津布久校長先生から卒業証書を受け取り、代表の青木理恵さんが「最後の卒業生として、吾妻中の誇りを胸に旅立ちます」と話すと、卒業生や保護者がハンカチで顔を覆う姿が見受けられました。

卒業式後の閉校式では、掲揚されていた校旗が外され、津布久校長先生から岩上教育長に返納される「校旗返納」が行われました。

式の最後には69年の輝かしい歴史を締めくくるように、生徒、保護者、参加者全員で校歌が斉唱され、伝統ある同校の幕が閉じられました。

また、12日には学校開放が行われ、卒業生など多くの人が懐かしい学校に訪れていました。今後、この校舎は「教育センター」として活用されます。



「全国学びとまちづくりフォーラム in 佐野」 と「楽習講師フェア」が開催されました



3月5日・6日の両日、佐野市文化会館で「全国学びとまちづくりフォーラムin佐野」と「楽習講師フェア」が、文化会館とその周辺を会場に行われました。

「全国学びとまちづくりフォーラムin佐野」では、「交流を活かして あなたも活躍 学びで広がる地域創世」をテーマにしたフォーラムが行われたほか、生涯学習や市民活動における全国各地の先進事例が報告されました。

また「楽習講師フェア」では、市内で活躍する楽習講師たちが集まり、さまざまな展示や体験コーナーが設けられ、会場にいらした方々が思い思いのブースで楽しんでいました。

市では「楽習講師」として、生涯学習につながるさまざまな講座の講師を登録しており、楽習講師が開く講座をご紹介します。毎月広報紙の「講座」のコーナーでお知らせしていますので、ぜひお気軽にご参加ください。

吉水町の榊神社での神楽 ～各所で維持される伝統文化～

昨年のこと。散歩の途中、近所の榊神社（吉水町）から笛、太鼓の音が聞こえてきました。



ちょうど、神楽が演じられているところでした。

榊神社の神楽保存会の人たちが、4月、10月の第4日曜に演じているとのこと。佐野市の無形文化財に指定を受けている神楽を維持し伝えるには、多くの苦労もあったと思います。

佐野市の各地域には、文化財の指定を受けたさまざまな民俗芸能、神楽などがありますが、意外に身近なところでも伝統文化の保存維持活動がなされていることに、敬服しました。

榊神社の神楽は今年は4月24日、午前10時から午後3時頃まで行われるそうです。今年も出かけてみようと思っています。
(市民記者 福田満)

市民活動団体などの報告会

3月17日、市役所市民活動スペースで、平成27年度に市が助成した市民活動参画支援事業2団体と、市民活動モデル町会支援事業4町会が、事業報告会を行いました。



平成27年度に対象となったのは下記の事業です。

(市民活動参画支援事業)

リングリンク：婚活支援活動事業

緑化クラブばなばな：緑化ボランティア事業

(市民活動参画支援事業)

村上町会：東・西弁天池整備事業

大橋町(市街部)町会：

通学路の防犯安全パトロール事業

船越北町会：イベントを通じた交流会事業、

鳥獣被害対策のための山草刈等の実施事業

米山町会：花いっぱい活動・

親睦会を通じた住民交流活動事業

この日は、各団体が行った市民活動事業が報告され、事業についての質疑が行われました。

※平成28年度の助成については、本広報紙17ページをご覧ください。

火の用心の呼びかけ

3月の火災予防週間の際には、市内保育園の幼年消防団の子どもたちが、スーパーなどの店先で「火の用心をお願いします！」と買い物客の皆さんに呼びかけをしてくれました。

5月頃までにかけて、火災が発生しやすい時期が続きます。最近は、特に「たき火」が原因による火災が増えています。くれぐれもお気をつけください。



↓ 吉水保育園

↑ くずう保育園



株式会社ゼンリンと協定

2月、佐野市は株式会社ゼンリンと「佐野市くらしのガイドブック」協働発行に関する協定を締結しました。

この協定は、市とゼンリンが協働事業により「くらしのガイドブック」を作成するものであり、市はその内容等の提供を、そしてゼンリンが広告を募集したうえで、印刷物を作成し、市内全世帯に配布するものです。

配布時期は7月を予定しており、配布後は転入された世帯へ窓口で配布します。

■ 問合せ＝秘書課広報広聴推進室

☎(20)3037

